

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 井谷、大川、北原、桐原、本上、義間、上戸、入江、田村、矢古宇 (L)

2. 山城/ルート 剣鍊成 RCトレ 裏六甲(鎌倉峡)：百丈岩

3. 交通手段 各自

4. 行動記録

<入山日 2017年 5月 21日(日)>

9:00 道場駅集合 ミーティングの後、百丈岩に移動

- ・ 下記4班(剣鍊成時希望ルートを参考に編成)でマルチ練習をすることを確認
①大川、入江、田村 ②井谷、義間、上戸 ③桐原、北原 ④本上、矢古宇
- ・ 15:30に百丈岩入口のトイレに集合

15:45 トイレに集合

ミーティングを実施(ヒヤリハット報告、次回28日(日)の確認等)

16:15 解散

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか?

- ・ 予定ルートをはずれた場合、あるいは日程が異なった場合はその理由
- ・ 各班ごとに、システム確認、マルチ練習、懸垂下降等を実施した
- ・ 15:45にトイレに集合できた

b) 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか?

発生した場合、具体的に記す

①落石

- ・ 百丈岩の1ピッチ目、終了点からロープを引き上げる際に、こぶし大の石を引きずり、そのまま下に落とした。石は地上で活動していた救助訓練中の方に当たった。フォロワーは、石の落下に気付いたのが遅く声かけをしなかった。
- ・ 反省点…浮き石が沢山あることを意識して慎重に登り、フォロワーは、気付いた時点で直ぐに「ラク!」と声かけをするべきであった。

②ロープの扱い

- ・ 最初にさばいてはいたが、釣瓶で登っている間に、ロープがもつれ、スムーズに出すことができず、ほどくのに時間が掛った。
- ・ ロープの長さが、50mと60mと異なることから、もつれやすかったことも考えられる。

③コールの伝達等

・ 東稜のルゼルトでO、T、Iの三人で登攀。Iがリードし、ビレイ解除のコールがありOがビレイ解除。その後トラブル発生。

(OとTの方)

今までは赤ザイル、黄色ザイルの順に登っていたが、今回Oが赤ザイル、Tが黄色ザイルを付けていたため、安全を考え、T(黄色ザイル)から登りますとコールしたが、伝わったかどうか不明

瞭な中、黄色ザイルが引かれたので、Tさんが登攀開始。ところが、途中からザイルがたるみ出し、登攀をストップして元の地点に戻りセツを取る。変わってO（赤ザイル）が登りだすも、まったくザイルの引き上げがなく待機した。

（その時Iさんの方は）

あの時最初に言われた場所でセルフをとり、ビレイ解除を伝え、支点を作って、それからロープを引き上げていましたが、たしか赤ロープが途中で動かなくなり、その後も黄色ロープは10m程引き上げることが可能でした。その日何度か同じようにロープの引き上げを行いました。赤も黄色もほとんど同時にいっぱいになったので、この時は赤ロープが岩に引っ掛かっていると思い、しかしOさんとTさんの声が全く聞こえなかったため、対処方法がわからず、少し下りれば声が聞こえるかと思い支点を解除し、少し下りたところで支点を再構築してしまいました。

セカンドの人が登ってきているかもしれないという考えは全くなく、また確保されていない状態で岩を降りてしまい危険な行為であったと思います。

（反省と今後の対策）

- ① コールが伝わるまで待つか、最初に決めたザイルの引きによる伝達により、お互いの意思が確認できてから行動すること。
- ② 3人の場合、基本的にはカットで登る2本のザイルの色の順番は変えないようにする。
- ③ リードは、支点を構築し、ビレイ解除のコールをした後は、支点の場所を変える等の行動しないこと。
- ④ コールが伝わりにくいことが想定される場合は、事前に打合せを綿密にすること。またトランシーブ等を利用する事。

c)パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

- ・反省会の際、ヒヤリハットを挙げて貰い、情報を共有化した。
- ・剣錬成RCトレであることから、本番前にヒヤリハット要因を抽出、経験し、対応を考察することが重要との共通認識とした。

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

報告者氏名

2017年 5月 29日

矢古宇